

# No. 1282

## 希望と躍動

— 第7回日本ジャンボリー —

健全有為な社会人を育成するため、野外活動を主とした青少年のための社会教育運動、一ボーイスカウト運動—の第7回日本ジャンボリーが8月4日から静岡県御殿場市中畑（滝ヶ原）で開かれました。

スカウト運動はいまや世界117ヶ国、約1400万の加盟人口を有する世界最大の青少年教育組織、日本ジャンボリーは4年を周期として開催され、今回のテーマは「希望と躍動」。5日には福田首相が視察しました。若いスカウトたちに囲まれた首相は元気に各会場を訪れ、「スカウト活動は楽しいですか」「君はどこ出身ですか」などと声をかけスカウトを激励。昼食ではスカウトにスープを大サービス、自分のスープが足りなくなる程でした。今回全国から参加したスカウトは26500名、海外からの参加もあり、キャップハンディー（身障児プログラム）、アドベンチャートレイル（冒険ゲーム）などを通じて国際親善と相互理解につとめていました。

## 島のギャング

— 沖 縄・浦 添 —

太陽とサンゴ礁の島沖縄。南部糸満地方に果しなく広がるサトウキビ畑。今、夏の収穫に忙がしい。サトウキビの収穫作業はこの地方の人々にとって命がけの仕事である。サトウキビ畑が沖縄で最も怖い動物、ハブの生息地のひとつになっているためである。浦添市にある公害衛生研究所。この研究所にはハブに咬まれた時に使用する、抗毒素血清の製造とハブの生態を調査するために300匹余りのハブがいる。ハブは非常に攻撃的で咬むと上アゴについている2本のキバから猛毒を発する。

わずか1CCのハブの毒、咬まれると皮下出血を起こし吐きけ、血尿などの症状が続き、2時間で死亡する。沖縄県で昨年一年間に咬まれた人は323人、うち死亡した人は2人。抗毒素血清の製造は県民にとって欠かせない仕事である。血清は採取した毒をうすめて、馬に注射する。これを一年間続けて血清をつくる。血清のため死んで行った馬は数知れない。ハブの捕獲は夜、行なわれる。夜行性のハブは昼間は茂見、石垣などにひそみ、夜になると獲物を追って活動する。この捕獲作業、20年のベテランも緊張する一瞬だ。成長すると長さが2.2mにもなり、牛や馬でも簡単に倒してしまうほどの猛毒を持つ島のギャング、ハブ、次はあなたの前に現われるかも。